

解 答

- 問一 別れを惜しむ女の子の気持ちを踏みにじった恭介を、いじわるなやつだと軽べつする気持ち。
- 問二 自分に対して冷たい視線をなげてるクラスの者たちに対して反発して、いなおっている気持ち。
- 問三 イ
- 問四 ウ
- 問五 「あいつ」からサイン帖を渡されて、とてもうれしい気持ちになるが、みんなの前で開いてゆっくり見るわけにもいかず、一刻も早く家に帰ってサイン帖をじっくり読みたいという気持ちでいっぱいである。
- 問六 卒業という現実がやってきて、今の恭介のまわりのことや人間関係や自分が変わってってしまうこと。
- 問七 卒業したら、野村さんとははなればなれになるという現実がやってくる。それはいやで仕方がないが、どうすることもできず、切なくやりきれない思いでいる。
- 問一 限られた時間内にお互いに言いたいことだけ言う〔ことができる点〕
- 問二 1 イ 2 ア
- 問三 ア
- 問四 「文章力」とは、文章の上手い下手とか、大量に書ける書けないということを指すが、「文脈力」とは、これまでに書いたことをふまえ、次の展開にしっかりと脈絡がつながるように意識しながら書く力のことを指すという点で違う。
- 問五 ウ
- 問六 話を散らしておもしろみをもたせ、文脈力と対話力で話を本筋にもどすことで、会話の質が高まり、相手も気持ちよく話せ、自然な流れが生まれてくるから。
- 問七 話題がそれでも、文脈力と対話力で主流に話を戻し、一貫性のあるコミュニケーションを成立させること。
- 問八 ① 異議 ② 共有 ③ 関心 ④ 編〔み〕 ⑤ 得意

解 説

記述問題（8題）、記号選択肢（4題）、ぬき出し（1題）、言葉（2題）、漢字（5題）という設問構成です。記述問題が多いのが特徴です。本年は、40字程度のもものが4題、80字程度のもものが2題、75字以内という字数指定のもものが2題という出題でした。文章は難し目で読み取りにくいものが出題されることもあります。物語・小説文の場合は、言動の理由など、場面における心情の正確な理解を問う出題が多いようです。また、主人公の葛藤をとらえたり、テーマに結びつけたりすると、記述すべき内容が見えてくるようです。今後もこの傾向は続くでしょう。論理的な文章の場合、初見の読み取りで文章の方向（論理の展開）を見抜いていくことに努めましょう。そのためには、話題（何について？）をつかむセンスを磨いておく必要があります。読書なども含め、日頃の言葉の学習を充実させて、読み取る力をつけておきましょう。また、語彙を増やしておく必要があります。以上のことを総合し、本番では、出された記述問題は全て書きあげる！ という強い意志をもって臨みましょう。

- 出典は、江國香織『僕はジャングルに住みたい』。

- 問一（記述・40字程度スペース・心情）傍線部直前の女の子とのやりとりを読み取ります。女の子の「別れを惜しむ気持ち」を恭介は、自分勝手な気持ちから踏みにじってますね。そのことを事実として説明したうえで、傍線部の後の「あいつ」が、いじわるという顔をして恭介を見ていたという表現を利用して、教室のみんなの気持ちを想像するとよいでしょう。
- 問二（記述・40字程度スペース・言動の理由・心情）「どんと席にすわった」恭介の言動の理由を考えます。やはり、その場にいたクラスの周りの者たちに対する、反発といなおるような気持ちから出たすわり方ですね。
- 問三（記号・言動の理由・心情）恭介は、「あいつ」と、これから別々の道を進むことがいやなのでしょう。学校のことや人間関係が変わってしまうことがいやなのでしょう。そこで、現実とは異なる場をあれこれ想像して、「ジャングル」と呼んでいるようです。現実から逃げられる場でもあるのでしょうか。
- 問四（記号・言動の理由・心情）一見、周りへの反発のように聞こえるかもしれないが、この「ちえっ」は、自分に向けている声だと考えることができます。a～dの場面をひとつひとつよく読み取ってみましょう。その場面場面で素直になれていない恭介がいますね。「ちえっ」は、その恭介自身の苦しさの叫び声になっているのです。
- 問五（記述・80字程度スペース・言動の理由・情景・心情）傍線の後の恭介の行動から、考えていることは一つですね。サイン帖が気になって仕方がないのです。学校では、みんなに見栄をはってしまった手前ゆっくり読むわけにもいかず、早く家に帰ってサイン帖を読みたいという気持ちでいっぱいなのでしょう。

問六（記述・40字程度スペース・言動）「何に対して？」と問いできいている、その意図をつかみましょう。サイン帖のことは、一つの象徴であると考えましょう。ここで恭介が「おもしろくもない」と思っているのは、サイン帖を書かなければならない現実のことでしょう。今の恭介のまわりにあることが全て変わっていってしまうことに対して、恭介はたまらない思いでいるのでしょうか。

問七（記述・75字以内・言動の理由・心情）文字通り、「俺たちに明日はない」ということを言おうとしているのでしょう。ただ、その言葉の中に、当然、気持ちがこめられているので、そこを説明します。「さみしい」、「悲しい」よりも、受け止めたくない現実が時々刻々と迫り来る状況にいて、やりきれないような切ない思いでいるのでしょうか。

□ 出典は、齋藤孝『コミュニケーション力』。

問一（抜き出し・該当の内容）「どのような点が見事である」のかをきいているので、文中の「それなりに有効である」と、ある意味でプラス面での説明がされている部分を選ぶとよいでしょう。

問二（記号選択・接続語）1 空欄の前で「ていうか」の多用の有効性を説いているが、空欄の後で、私自身に使われたら別問題で、不愉快だという文脈になっています。この「別問題で」という条件に続くかたちにするために、「ただし」を入れるのが適切です。2 コミュニケーション力について、「ひと言で言えば」と、まとめているので、「すなわち」がよいでしょう。

問三（記号選択・該当の内容）「ていうか」を用いるとき、一つは全く話題を変えるためであり、もう一つの理由は、自分の言いたいことを言うためだと筆者は説明をしています。その「ていうか」が癖になるということは、「自分の話をしたい」ことが癖になるのだと考えられます。

問四（記述・80字程度スペース・要点、比較説明）筆者の考えである「文脈力」とはどういう力のことをかを中心に考えます。比喻で説明している部分はさけましょう。傍線部の前後から内容を選べるはずですが、また、両者の違う点を答えるので、文末のまとめ方も、「～という点が違う。」などと、ひと工夫が必要です。

問五（記号選択・該当の内容）傍線部の直前に、「そもそも戻るべき主流などはなかったという会話を」とありますので、主流、話の本筋、根幹の存在しない会話ということになります。

問六 「散らす」「戻る」をうまく活用できると、会話の内容がどうなるかを考えると、説明の方向が定まります。結局、「充実した、中身のある会話が成立する」ということになりますね。そのような会話になれば、コミュニケーションの幅が広がるということになるでしょう。あとは、そのために、「散らす」と「戻る」を「何を」「どうする」のような視点で説明を考えてみましょう。

問七 会話をキャッチボールにたとえているわけなので、実際の会話のあるべき姿を、筆者の考えにそってまとめます。「どんな球を投げられても」は、「話が本筋から外れる」と、「気づかれないうちに」は、「対話力によって」という表現で、「胸の真ん中で受け止めてみせる」は、「話の本筋をとらえた会話を成立させる」と、まとめることができますね。